

平成26年度

学校経営計画

練馬区立開進第一小学校長 説寿弘

1. 開進第一小学校の教育目標

一とともに生きる一 ・かしこい子 ・やさしい子 ・たくましい子
の3点です。 知・徳・体のバランスのとれた健全な人間形成がねらいです。

2. 教育目標を達成するための基本方針

- ①子どもにとって、安全で安心できる学校を目指す。
- ②知（国語）徳（道徳）体（体育）の充実を図り、生きる力の育成を目指す。
- ③人権尊重・人間尊重の精神を培い、他を思いやり、認め合い助け合う教育活動
- ④自ら考え判断し、表現力を高める。また関わり合い・学び合いを重視し、児童一人一人の個性や能力を伸ばす指導
- ⑤家庭や地域社会との交流を深め、地域の教育力を生かした教育活動を工夫し、開かれた学校を作る。
- ⑥生活科・総合的な学習では、地域・人・自然との関わりを重視し、さらに、英語活動やパソコン等の情報教育にも力をいれ、主体的に学習する態度を育てる。

3. 具体的指導の重点

- ①国語・道徳・体育の授業を通して自己表現力を高め、さらに関わり合いを大切にして生きる力を育てる。また朝読書（毎火・木曜日）による豊かな心の育成
 - ②出前授業（ごみ・薬物指導・食育・美しい日本語指導等）、保護者参加型の授業
 - ③全学級実施による道徳授業地区公開講座・・・6月27日（金）等による道徳的心情の育成
 - ④縦割り班活動による全校スペシャル集会・・・7月16日（金）等による自主的・実践的な態度の育成
 - ⑤農業体験（ジャガイモ・さつまいも・大根・お米作り等）
おいもパーティー、ふれあい給食会、地場野菜を給食に！
 - ⑥セーフティ教室を充実し、他機関との連携を図り、安全指導・安全確保の徹底
 - ⑦いじめ・体罰に関しては、校長がリーダーシップを発揮し、組織的・継続的かつ迅速に対応し、いじめ・体罰、不登校0を目指す。
 - ⑧幼稚園・保育園や中学校との交流を充実させ、自己実現を図る。
 - ⑨体力テストを5月と10月の2回全学年実施、この取り組みを有効活用し、本校児童の健康維持・体力向上を図る。その結果を個々の体力向上に生かす。
 - ⑩道徳教育を重視し、全教職員で授業実践を中心に授業力を高め、やさしい子ども育成を目指す。
 - ⑪作品展・・・11月14日（金）・11月15日（土）豊かな感性、創造力の育成
 - ⑫研究発表会・・・12月5日（金）保護者・地域・区内外へ信頼・開かれた学校
- ### 4. 目指す学校像・基本的な考え

保護者や地域から信頼される学校として、学校教育の充実と児童の活動を保障し、児童の安全確保を最重点に学校経営を推進する。

①児童にとって、明るく楽しい学校づくり

- ・基礎基本の定着（学習指導・生活指導面も含めた共通の理解と実践）

②教職員が指導に喜びのもてる学校づくり「前進と思いやりのチーム開一」

- ・教職員の意欲や能力を結集し、組織的な学校運営に努める。（主幹・主任教諭や校務分掌各主任の経営参画と意識化）

③保護者や地域から信頼される学校づくり

- ・PTA組織を中心に学校との連携を密にしていく。また、学習ボランティアなどを積極的に活用していく。

④児童が安心して生活できる学校づくり

- ・施設設備の点検・補修、充実、安全対策、環境美化に努める。

5. 中期的経営目標と方策

学校は、教職員一人ひとりが学校運営に参画していることを自覚し、一つの組織体となって教育活動に邁進していかなければならない。また、各々の教職員の全人格・個性を生かしながら、児童と向き合い、指導していかなければならない。この両面を踏まえながら、開進第一小学校の児童一人ひとりを大切にし、個性や能力を伸ばさせていくことが課題である。

さらに、心の教育を通し、自他を大切にする心や互いを認め合う心を育て、人間性豊かな児童を育成していく。

①集中して学習に向かう姿勢を基本とし、意欲的に学習する子どもの育成

ア 授業規律の確立を図る

イ 授業方法の工夫・改善（T・T授業や交換授業、保護者参加型の授業など）

ウ 生活指導の徹底（安全・安心、あいさつ、集まり、後始末等）

②心の教育の充実

ア 「学校いじめ防止基本方針」を作成し、組織的かつ迅速に対応し、「いじめ・体罰」のない学級・学校づくりに全力を尽くす。また不登校児童0を目指す

イ 道徳授業地区公開講座における全学級公開

③基礎基本の定着

ア 基礎的な基本的な事項の徹底（繰り返し学習・家庭学習など）

イ 指導内容の精選・評価規準の活用による個に応じた指導、授業時数の増加

④教育相談の充実

ア 特別支援委員会を核とし、子どもの情報を共有した、全校体制による対応

イ 外部支援を得ながら、学級担任を支える取り組み

ウ 関係諸機関等の教育相談員との連携

⑤特別支援教育の充実

- ・一人一人の教育的ニーズ（もてる力を高める、困難さへの改善・克服）

6. 平成26年度 達成目標と具体的方策

①個に応じた指導の充実・発展

○能力を活かした交換授業・協力授業を取り入れる。

ア 授業形態の工夫（関わり合い・学び合い重視）

イ 学力向上支援講師やティームティーチング指導による学力向上

②「総合的な学習の時間」の充実・発展

○95（3年）・100（4年）・75（5・6年）時間の実施計画作成

○情報学習（7～15時間程度）、地域／自然／環境／文化等の実施

③校内研究の充実

○各学年ブロックによる授業研究（年6回以上）

○自主的・実践的な授業公開と保護者・地域向け発表会の実施

④健康教育の実践・・・運動・保健・食育について

○モリモリウィークを通した体力の向上、家庭との連携、日常化を図る。

○体力テストを2回実施することで、自らを把握し、体力の向上を図る。

⑤文書管理や事案決定の流れの定着（運営委員会への提出）

○事案決定は校長（副校長）が行う。

○学校からの文書は公文書扱いと考えて作成する。

⑥外部評価を生かした学校運営（学校評議員会や保護者の意向の重視）

○学校アンケートの実施。12月に実施予定。

○学校評議員会を年3回、開催予定。

⑦夏季休業中の学習会の実施

○学力補充教室…各学年3日間以上実施。

⑧保護者と外部侵入者との差別化の徹底

○保護者証の携行の徹底…携行していない方への声かけ（不審者の把握）
（携行しての来校時は「来校者ノート」への記載は不要）

○外部侵入に対する訓練の実施（職員研修・児童向け訓練）

⑨外国語活動、外国を調べよう

○35時間（5・6年）の完全実施

○外国の話を聞き、言葉や文化を調べよう

⑩学級経営・クラブの支援・充実（学習ボランティアの導入など）

○学習ボランティアの活用を積極的に図っていく。

⑪食育・性教育・薬物乱用防止教育の充実

○全体計画および年間指導計画による食育の推進

○異学年交流給食（たてわり班）

○養護教諭とのTT授業の計画的導入

⑫特色ある教育活動の継続・発展

○1・2年生の『保育園やお年寄りとの交流』『地域探検』

○3年生の『練馬大根を育て、たくあんを作ろう』『大豆を育て変身させよう』

○4年生の『ごみ・バリアフリー』

○5年生の『岩井移動教室』『米、育てて食べて考えよう』

○6年生の『軽井沢移動教室』『福祉について考えよう』

⑬安全・防災意識の向上（登下校中・交通安全・震災時等）

○震災時等のメール配信、HP発信、緊急連絡網の活用

○学年一斉下校・安全マップの作成

○保護者の協力による登校指導、学期に1回程・下校指導

⑭開進第一中学校との連携

○小中一貫校を見据え、小中連絡会だけでなく、日常からの交流の推進

○中学校の先生による出前授業（2月予定）、部活体験

⑮サービスの厳正とOJTを活用した教員の指導力の向上

⑯学校図書館の活用と読書活動の推進

○朝読書の推進や保護者ボランティア（マザーグース）の読み聞かせの活用

⑰長期休業中の研修内容の交流

○夏季休業日末に、研修で得た成果や内容を提供し合い、互いに高め合う。

7. 信頼される学校にするために

①知・徳・体の充実を図り、生きる力の育成を図る。そのことを発信する。

②人権を尊重した教育を徹底する。

・体罰は絶対あってはならない。言葉の暴力でなく、その子どもに応じた心を通じ合う言葉での指導を心がける。（あったか言葉で！）

③保護者・地域の方々の願いを受け止める。

・多様な価値観をもった保護者がいて、学校に対し厳しい意見や要望がある。先ず受け止めることで相互理解を進めていく。

・対応は誠実に公正にそして迅速に行う。また電話の応対にも注意を払う。

④何事にも記録をとる。

・トラブルがあった場合にも、記憶ではなく記録をもとに話し合いを進めることが大切である。

⑤スクールカウンセラーや心のふれあい相談員との連携

・問題行動や家庭の状況を抱えた児童が増えてくることが予想される。そうした子ども達への支援の在り方を積極的に学び学級経営に生かす。

⑥全員で共通した指導を行う。

・生活指導部だけでなく、共通した指導を全教職員が行うことで、児童への指導の統一性を重視し、不要な混乱を避ける。

⑦事務の管理と予算の適切な執行

・金銭の管理や事務処理には厳しい目を向ける。また、教育活動に何が最も必要か見極め予算の有効活用を図る。今年度は研究を優先する。

⑧学校事務職員や各主事等の職責や職務の明確化

8. 「4つのあ」を合い言葉に、生活指導を徹底する。

・「安全・安心」は、日々の学校生活で目配り・気配りが最重要と考える。

・あいさつは、人間関係の第一歩である。他を思いやり、優しい心で接する気持ちの表れであると考ええる。

・あつまりは、全員が揃って始められるよう、和・統一を意味すると考える。

・あとしまつは、感謝の気持ちと次への意欲付けを意味すると考える。

※一つを徹底することで、多方面の内容（学習や生活、友達関係等）に波及する事を期待し、全職員でこえかけをしていく。